

『幼稚園』

出題者：甲村 健一

子供から見ると大人は何でも知っているすごい存在に思える。なぜなら大人はいろいろなものごとのあいだに仕切り板をたてて、頭の中にある引き出しを上手に整理できるからだ。でもその仕切りの板の位置が本当に正しいのかどうかをきちんと審査できないままなんとなく大人になってしまっている。そんな気がする。

その何となく仕切られた枠を、実は我々大人達は子供達にプレゼントしてしまっていて、その枠の中で“自由”に育っているように思い込むようにしている。

少々強引ではあるが、これまでの「幼稚園」とはこんなようなものだったと思う。

我々設計者（大人）が“子供の感性を伸ばす自由な建物”を提供しているつもりでも、そこには子供にだけに見える不思議な規則が（おそらく）いっぱい詰まっていて、そしてその規則が実は子供達を不自由にしていた可能性もある。

このことは幼稚園にかぎらず、すべての建築で少なからず起こっていることである。

今回の課題では、そのようなある種の「規則」を飛び越えてみることを目的としている。これは決して“常識を逸脱した建築を作れ”という大袈裟な課題ではない。建築を思考する上でこれまでに使い古されてきた、概念設定やそれに対応する建築的手法そしてそれらの関係性などに対して少しだけ疑りをかけてみることである。

我々大人が気づかないあいだに従っていた規則やルールが、彼ら子供達の目には一体どのように映っているのか？そのことについてちょっとだけ考えてみてほしい。

その上で君達の子供な感性と大人な知性とを織り交ぜながら、新しい幼稚園を提案してもらいたい。

「課題内容」

- ・規模は特に問わない。ただし現実的に許容される規模とすること。
- ・敷地は名古屋市内であればどこでも構わない（都市、郊外、自然の中など）。

「提出物」

- ・ A 1 用紙 2~3 枚程度を必須とする。プレゼ方法は不問（各自の力量に合わせて）
- ・ 必要図面：設計主旨文（1000~2000 文字程度）、敷地写真添付、配置図、平面図・断面図・立面図、（断面図と立面図は各 1 面以上）、模型、コンセプト図（概念図）
（必要図面の縮尺・範囲等は、各自の計画規模や内容に合わせて調整すること）
- ・ 任意図面：模型写真、CG 画像など
- ・ 評価項目：上記提出物の他、プレゼ力（説明力）も評価の対象とする。

発表時間は各自 5 分間（時間厳守）とし、いかに自分の設計主旨を伝えられるかを評価対象とする。

■ 参考資料

本課題の制作に当たっては建築家による作品事例を参照し、それぞれの建築家がどのような発想をし、それに対してどのような手法を用いているのか、などをよく読み込んだ上で挑んで欲しい。

また参考とする建物は幼稚園・保育園に関わらず、学校などの同じ年代・境遇の人たちが集まる建物も参考にしてほしい。

参考作品（幼稚園・保育園）

- ・ 八代の保育園：みかんぐみ（新建築 0106）
- ・ ふじようちえん（計画案）：手塚貴晴+由比
- ・ ファンタジアの家・ファンタジアの家Ⅱ：八島正年+高瀬夕子（新建築 9902・0002）
- ・ B//M（米原幼稚園）：遠藤秀平（GA62）
- ・ 片岡台幼稚園の改装：乾久美子（新建築 0110）
- ・ 野間自由幼稚園：安藤忠雄（新建築 0407）
- ・ 板橋さざなみ幼稚園アネックス・ANNEXⅡ：遠藤剛生（新建築 9310・0105）

※その他多数。

参考作品（その他）

シーラカンス（C+A、シーラカンスK&H）：学校建築作品。

- ・ 吉備高原幼稚園（新建築 9907）
- ・ 吉備高原小学校（新建築 9807）
- ・ 千葉市立打瀬小学校（新建築 9507）
- ・ 宮城県迫桜高等学校（新建築 0105）

藤本壮介：療養施設作品。

- ・ 情緒障害児短期治療施設 生活棟（新建築 0609）
- ・ 伊達の援護寮（新建築 0409）
- ・ 聖台病院新病棟（新建築 9912）

※その他、各自で参考になると思われる作品をよく読み込むこと。